

※ 本コラムは、共同通信社より配信されたものです。

水の恵み生かす

森林守る活動も

富士山が世界文化遺産に登録されました。富士山は、山梨県と静岡県にまたがっています。実は山梨県には富士山以外にも日本一のものが数多くあります。例えば、2010年のデータでは年間の日照時間が日本で一番長い。そのおかげで果物がたくさん収穫できて、12年産のブドウやモモの収穫量も日本一でした。さらに日照の多さを生かして、太陽光発電も広がっています。

ミネラルウォーターの年間出荷額も10年の国の統計で全国1位でした。富士山や南アルプスなどの山並みに育まれる湧き水の豊かさから、山梨県は「名水の郷」とも呼ばれています。

こうした自然の恵みを事業に生かしているのがサントリーグループです。山梨県を含む全国13都府県の計17カ所を「天然水の森」と名付け、地下水を育む森として整備する活動をしています。荒れたままの森をさまざまな方法で手入れが行き届くようにして、雨を一時的に蓄える力を高めています。

飲料メーカーにとって水は重要な資源です。山梨県にはサントリー以外にも森林保全に取り組む企業の工場やワイン醸造所があちらこちらにあります。

ちなみに、12年5月に開業した東京スカイツリーの設計チームには山梨県出身の人がいました。スカイツリーは、ライトアップ用や館内の照明を全て発光ダイオード(LED)にして電力使用量をできるだけ抑えています。周辺を含めた「東京スカイツリータウン」にも、さまざまな環境技術が導入されています。

話題のスポットを支える企業や技術陣が、どんな考え方で活動しているのかを知るとは、投資判断にも役立つことでしょう。(株式会社グッドバンカー)